

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告(その40・41)です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

【福田行政書士事務所】

20代の行政書士が創業したLGBTQフレンドリーな行政書士事務所です。この地域ではかなり珍しいかもしれません。メインの業務としては、LGBTQにまつわるご相談や啓蒙活動、同性カップルのパートナーシップ公正証書の作成などを行います。その他、各種許認可申請代行等も。誰にとっても身近だと思ってもらえるよう窓口を目指しています。

【Twitter】 @fukudagss



SDGs	今後の目標	
------	-------	--

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・事務所が力を入れているLGBTQについて、11人に1人がLGBTQの当事者であるっていうことを聞いて自分にとってとても身近なことなのだなって知ることができた。だから、接し方とか気をつけたいと思った。また、仕事の選び方について、自分がやりたいってだけでなく、自分にあった環境とかについても考えることが大事だということ学んだ。

・主にLGBTQについて学びました。学校などでもたまに耳にする言葉ではありますが今回の講座で11人に1人の割合でいるということを知り、海外でもそれぞれを尊重していく生活が当たり前になってきていることも知りました。もしかしたら私の身近なところにもいるかもしれないことに気づき、普段の言動に気をつけながら過ごすことも大切だと思いました。一人一人の価値観が違うことは当たり前なので尊重していきたいです。

・LGBTのこれからの時代の重要性を学びました。アウティングなどの専門用語や、まず自分が出来ることを考える良い機会になりました。また、相談にかかる費用なども知ることができました。

・LGBTQは左利きの人くらいの割合でいると聞いて、自分の思っていたより身近な存在なのだと感じました。だからきっと、私はこれからLGBTQの人に会う機会もあると思うので、カミングア

ウトすることや、傷つけてしまうことの無いよう、配慮をすることが大切だなと思いました。LGBTQの人に対してでなくても、そのような配慮はすると思うので、LGBTQの人をそこまで特別視することもないのかなとも思いました。

・講師の福田さんはパニック障害があって、学校に通うのが難しくなってしまったということを知りました。それでも、自分を知って、合う仕事を見つけて、それに向かって努力されていて、今でも夢に向かって努力されているということでした。私は福田さんのような生き方もあるのだな、と学ぶことができました。特に、自分を知ることが大事だということが心に残りました。自分では分からないところもあると思うので、友達や家族など、自分はどんな事が向いていそうか、意見を聞いてみたいと思いました。

・もともとLGBTQについて興味を持っていて、今回の福田さんの話を聞いてLGBTQの人は約11人に1人いることなどLGBTQについてより理解を深めることが出来ました。また、LGBTQについてなどどうしても理解できないことがあるかもしれないけど、受け入れようとするのが大切なのだとわかりました。LGBTQのことに限らず、まだまだ理解されていないことが多いと思うのでまずは自分が出来ることから挑戦してみようと思いました。

・福田行政書士事務所ではLGBTQであることが邪魔にならない社会作りに貢献できたら...という目標のもと活動を行なっている。具体的にはLGBTQの当事者やそのご家族、周りの方などで困りごとや悩みがある方を中心に相談を受けたりしている。また、行政書士としては同性カップルのための公正証書作成やアドバイス等を行なっている。私も、ジェンダー平等、全ての人が暮らしやすい社会に憧れるため、とても興味深い話だった。個人でやられていると聞いてびっくりしました。高校を中退したあとに自力で高校卒業資格を取られたということはとてもすごいことだと思うので、ものすごい努力をされたのかと思うと感激します。僕も何か目標を決めてそれに向かって努力をしたいと思っているので参考にしたいとおもいました。

・行政書士の仕事は市役所関係の仕事で、書類作成や手続き代行業務、行政相談など私達にとって身近な仕事である事を初めて知りました。自分でするには専門知識も無く不安なので、行政書士に相談や代行を依頼する事は大切だと思いました。福田行政書士事務所ではLGBTQに関わる相談や講演会も行っていて、固定概念に囚われず他人を認め受け止め、互いに理解し合う事の大切さを実感する事ができました。

・LGBTQの人たちの話を聞いて相談に乗ることでその人たちが感じている世の中の不満などを知ることができたり、当事者の方たちの心を軽くしたりしてすごい活動だと思いました。福田さん自身も持病に悩まされていると知って、自分のことを知り、一番働きやすい環境を探していくことが大事だと思いました。また、ただお客さんを待つのではなく、たくさんのイベントを開催して受け入れやすい環境を作っているところが工夫だと思いました。他人のことを理解するために様々な催しを開催し、SDGsを意識した活動をされていてすごいと思った

・僕は将来法曹の職につきたいと考えていて日本ではまだLGBTへの認識が浅く色々な問題が起きていると思うので、自分ももっと認識をするべきだと考えていたのでこのような機会理解を深めることが出来て良かったです。

・LGBTの人がいる割合が11人に1人と聞いて自分では感じてないだけで実際はもっと身近にそ

のような人がいるのだと思うと自分はこれからもっと認識をし、今日学んだアウティングをしないこと、カミングアウトを受け入れること、ネガティブな話題が出たら話を変えることを頭に入れてより LGBT を尊重し、日本でもっと認識を広げられるようにしていきたいと思います。

・2 講座目の福田行政書士事務所様において、主に LGBT の問題についてお話ししてくださいました。最近では LGBT を改め LGBTQ と表されるようです。LGBTQ の当事者は 11 人に 1 人の確率でいるそうです。また、福田様からは人生についてのお話しも伺いました。高校の経験談をお聞きし、今後の人生に役立てていきたいと思いました。そして、今回の講座でとても印象に残ったのは「違いは常にそこにある」という言葉です。まさに人種差別やジェンダー問題の根本的な原因と言えるのではないのでしょうか。

◇ 企業紹介

【医療法人 香徳会】

介護老人保健施設太陽苑、グループホームあさひ、あさひデイサービスセンター、旭ヶ丘訪問看護ステーション、関中央病院居宅介護支援事業所をご紹介します。施設の中には、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネージャーなど、高齢者を支えるエキスパートが揃っています。



【HP】 <http://www.koutokukai.jp/>

SDGs	取 組 中			今 後 の 目 標	

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・施設を利用する方の目線になって、医療、介護のサービスをしているということが分かりました。常に向上したいサービスを提供できるように工夫がされているなどと思いました。

・私は今まで、介護施設には介護士とリハビリスタッフしかいないと思っていました。しかし酒向さんのお話を聞いて、十一職種の方が専門分野を生かしつつ利用者さんのことを支えあっていることを知りました。特に、「高齢者は地域全体で支えることが大切」という話が心に残りました。介護スタッフや家族に任せるだけでなく、若い世代も高齢者のことを知ることが地域のみならず幸せに過ごすために必要なのだそうです。私は将来地域医療に関わりたいと考えているので、その時には病院に来る患者さんだけでなく、地域全体に気を配ることができるようになりたいです。

・介護というのは、その施設の職員さんだけでなく、地域全体で行うものなのだということを学んだ。さまざまな職種の方々が専門的な知識を持ち寄って、一人の方に真剣に向き合うという姿がとても格好良く、また心から尊敬したいと思った。看護師には看護師、医師には医師、介護士には介護士、それぞれにしかできないことがあるように、高校生には高校生に

しかできないこともあると思うので、地域を支える一員としての自覚をもって行動していきたい。

・医療関係の仕事は、大変で責任を持ってやらなければならないと知っていたけれど、今回の話を聞いて病院での患者さんの手当てや看護だけでなく、その患者さんが退院したその後までみて、サポートしていくことを初めて知りました。また、関市の高齢者へのサポートは手厚く色々考えているのだと思いました。将来的に、看護系の仕事に就こうと思っているのでそれを考えるためにも参考になりました。

・点滴を打てば大丈夫という意識が多くの人の中にあって、私もその1人だったが、点滴の内容を食べ物に変換すると、ポカリ2本や水、プロテインなど食事と考えるにはとても少なく、点滴だけで栄養をとっている場合、飢餓状態に陥ってしまうということに驚きました。介護施設では、介護士やリハビリスタッフだけでなく、医者や看護師、薬剤師、栄養士や歯科衛生士などの11種類もの方々がそれぞれの専門の分野を利用者の方々に提供していることがわかりました。

・現在の医療制度や、どんな施設があるのかなど、様々なことを知ることができました。病院と連携しているからこそ、在宅医療をうけている方や、老人ホームにいる方が急変しても、すぐに医者にもてもらえるというメリットがあるそうです。しかし、今は人手不足で、多くの方に就職してほしいそうです。高齢化が進むなか、高齢者がよりよく治療が受けられるように、施設が整っているそうです。全ての人に健康と福祉をというのができていて、凄いなと感じました。

・患者さん一人ひとりに合わせた対応を取ることで、家族の皆さまや本人が安心して楽しく過ごせる環境を作っているのが素晴らしいと思った。また、施設だけでなく地域とのつながりを意識することで、家に戻ってよりよい日常が送れるようになることが知れた。地域全体で支えることの大切さを学んだ。

・医療の他にも、介護もしており、施設を利用されている方は、患者さんで、お客さんではなく利用者さんと呼んでいる。利用者さんはマスクをつけない方が多かったが、志村けんさんが亡くなったあたりからコロナの危険性を各々理解し始め、密に気をつけたり、マスクをつけたりするようになった。そのおかげか今まで感染を0に抑えている。私は介護をする場所というだけで患者さんと呼ぶと思っていたがお互いに対等にされている、やってあげているという関係ではないことに対して好感を持った。チャットで私が質問したことについて詳しく話していただいて、医療系に就きたいと思っている私にとってモチベーションが上がるミーティングになりました。

・わたしも医療関係の仕事に就きたいと思っているのでいい経験になりました。自分は将来薬剤師になりたいと思っており、最先端で働く医療の方々のお話が聞けてとてもよかったです。今は高齢化が進んでおり介護が必要な人が本当に増えていると聞きました。だから将来に向けてより高齢者の方たちについて知っておかなければならないと改めて理解しました。

・香徳会さんでは利用者さんや地域のためにたくさんの工夫がされていることを知ることが出来た。それぞれの職業の仕事内容を今まで知っているつもりだったけど、お話を聞いて本当の仕事内容を学べた。また、多くの方がチームになって利用者さんを支えることで笑顔が広まっていくのだと感じた。人の役に立てる仕事に就くには、幅広い知識と教養が必要で、コミュニケーションも大切にしないといけないと分かったので、高校生のうちから高められるようにしたい。